

蹴 球

復 刊 第 一 号

August — 1951

西 松 會
東 京 商 科 大 學 蹴 球 部
一 ツ 橋 大 學

蹴球『復刊第一号』目次

巻頭言

◇

◇

◇

復刊のことば

西松会幹事

2

寄稿

車中感

松本正雄

4

西松會梗り

一、行事

一、西松會總會

9

一、會員近況

10

幹事よりお願ひ

17

蹴球部梗り

一、戦後の蹴球部の概況

19

1 頁

蹴球『復刊第一号』目次

巻頭言

◇

◇

◇

復刊のことば

西松会幹事

2

寄稿

車中感

松本正雄

4

西松會便り

一、行事

8

一、西松會總會

9

一、會員並況

10

幹事よりお預い

17

蹴球部便り

一、戦後の蹴球部の概況

19

1 頁

一、昭和二十五年年度及昭和二十六年年度春季戰績

一、部員紹介

一、新人紹介

西松會名簿

蹴球部部員名簿

備集後記

卷 頭 言

立ち上る砂埃の中に見失うようなボールを追つて、汗が目に滲むのも忘れだ夏合宿の想出、勝つては肩を組んで泣き、敗北では涙を拭い合つたり、リーグ戦試合の了つた一ときとの追想、これら一切の我を忘れて只一途にグランドに駆け合つたわれわれの回想こそは、われわれの永遠の親和の源である。

境遇を異にし、たとえ時勢の変遷の幾多に遭はうとも、この追憶を失はない限り、われわれの集いは常に清く明るく、それはわれわれに恵まれた真実の誇りなのである。

洵に伸びんと欲するわれわれの生命は日々に新しく、今やこの美しい親和をより具体的に形成しないではおかないであらう。「蹴球」の復刊はこの意味においても重要性を担うものである。

復刊のことば

幹 事

◇
長瀬東作さんが蹴球部復興の基礎を作つて昭和九年に卒業され、当時興隆の一途にあつた蹴球部はその年早速部誌「蹴球」を創刊したのである。

その後部数は年を追つて重なつたが、戦争という惨禍がなければ部誌「蹴球」は固より何もかもよくなつて行つておつたことは、今更兼もが異論はあるまい。けれども戦争によつて休刊となつたこの部誌に會員相集れば必ずその口にして、何らかの形を与えてその一日も早き復刊を希うた訳である。

然り戦後の復興途上にあるわれわれの社会生活は決して安易なものではなかつた。生活することそれ自身、殆ど他を顧みさせない程に、困憊のどん底にあつたといえよう。

然しわれわれは戦後のともすれば陥り易い消極性の殻から今こそ脱け出して、「蹴球」復刊の機会を決然と創り出さうとしたのである。さうした意見に従つて、こゝに復刊の第一号を會員諸兄に御届けする次第である。

◇
われわれは先づ何よりもお互の親睦をもつともつと強化しなげればならない。

破壊と混乱の極から立ち上つたわが國の再建と復興を真に達成させる爲には、何事を問はず、何物にも疑はれないで、われわれの眞の協力を要請されるのである。われわれ會員は夫々銘々の境遇を異にするところ著しく、その公的私的の關係はいろいろに相違することは固より十分承知のことではあるが、蹴球部によつて培はれた精神によつて結ばれた絆は、何ものによつても断ち得ない強靱なものである。蓋し

西松会という集いは利害を超越した、その血は美しい精神的な不文律によつて出来上つた集りなのである。偶々お互に会うわれわれの見つめる目には目を以つて語りあへ、又微笑むものに微笑みか美しい無言の会話をなさせるのも、その根底にわれわれの学生々活の凡てを形成したあの蹴球部生活が、われわれの血となり肉となつてゐるからである。われわれは今日会員相互の親睦をもつともつと強化しよう。そうしてわれわれの身近かな生活をより美しくすると共に、わが國の再建と復興にも出来る限り寄與しよう。これがわれわれの正直な叫びなのである。

われわれはこの度西松会を、広く考えて学生をも含むものとした。そして先輩と学生との一体的関係を更に強化することにした。学生現況については別項の記事の通りであるが、西松会の故里は改めて言うまでもなく母校蹴球部である。母校蹴球部の充実こそは西松会の又大きい目標の一つである。学生諸君は近來學制改革その他の一段落に伴つて、挽回軌道に乗つて部の整備に當つてゐるこの秋こそ、その噴調なる成果にわれわれは万雷の応援を惜しむものではない。この意味に於ても「蹴球」の復刊その他の事は、大いに寄與するところがあると思われるが、われわれは均しく痛感するものである。

さて西松会の具体的活動とは何であるか。

その一つはわれわれの親睦を強化するために先づ毎年春（六月頃）秋（十一月頃）定期的に総会を開くことに決めたことである。この期日要領等は幹事より在京地方を向はず会員諸兄に御知らせする。

その二はこの「蹴球」を定期的に毎年八月頃に発行することとした。発行に當つての、会員諸兄への連絡は幹事に於て御通知するから次号からは御意見等大いに御寄せ下さるよう茲に御願ひする次第である。

その三は学生との交流であるが、練習試合その他技術指導については幹事において計画の上適宜御知らせすることにしたので、会員諸兄の積極性にこの際大いに期待する次第である。尚今自体の試合計画等も幹

事に御一任を願うことにしたから併せて御了承を願いたい。

さて又以上のことを実施に移し、而も円滑な運営を期すためには番松会の財政的基礎を速かに確立しなければならぬ。そして此れは最も緊急を要し、又会員諸兄の絶大なる御賛同によらなければ、眞の成果は期待し得ないのである。この企図については別項を御参照願つて諸兄の心からの御支援をお願する次第である。

車 中 感

松 本 心 雄

七月二十九日、東京駅で燕号に乗り込んだ。割合に空いている。この二月に健康を少し害したので久しぶりの旅行である。ホームで買った月刊読費や改造を読み散らしている間に丹那トンネルに入った。早い、まだ一時間半ぞこそこである。暫らくくとくして退屈しのぎに食堂へ行ったら、ある印刷会社の重役をしている親しいK君に会ったので四方山の話に思はず時を過ぎた。友人は追放が解けたので何となく朗であつた。此れから再び自由に活動できると喜んでいた。もともと呑気な男だが追放ということはやはり重荷であつたようだ。

K君と別れて再び独りで窓外を眺めていた。浜松も過ぎた。浜松は私にとつては特に印象が深い土地である。戦争が始まる迄の十年間というものは夢中に怠つて参禪に通つた奥山のある所だ。紫山老師は大分の萬殊寺に隠居せられていたが遙か方広寺に合掌した。独りで旅をしていると過去が走馬燈のように浮んでくる。方広寺といへば大掛君を連れてきたことがある。全君の病床を見舞いたいと思いつつも、いまだ

果せずにいるが幸に快方に向はれつゝあるようでも引籠き良いのであらう。病床で、¹泥佛水に濡れずしを想ひ出して欲しい。またとなくよい時機である。

列車は濃美平野の真只中を驀進している。青田の稻は素人眼にも伸びている。今年も豊年だらう。ふと瀬藤君から頼まれていた西松会の雑誌への寄稿のことを思い出した。昨日迄の約束をしたのであつたが雑誌に追はれて過ぎまされた。申訳ない。ぼんやりせずには何か書かう、と思つてペンをとつたのがこのたどたどしい列車内での散文である。

汽車の旅は終戦後六年を経てすつかり昔に戻つた。この熟考の如きは戦前以上のサーピスである。交通機関は大体復興したといつてもよい。

母校蹴球部の姿は如何であらうか。最近漸く復興への軌道に乗りかけたやに感ぜられる点もあるがまだ遠くである。白雲万里とでも言いたい所である。

併しこれは在学生を責めただけでは無理である。去年同部の予算等が八千円ではボール一個二千円として四個しか買えない。先輩、後輩の精神的なつながりも戦争以來大分萎んでいる。こゝろで物心両面から西松会として極力後援せねば部の復興もおくられるばかりではないかと憂へる。部には伝統ができた。この伝統の力こそ現在の部を持ちこたえて行く唯一の原動力だと考へる。伝統の力によつて部が立ち直つたときには新しい力がぐんぐん出てくる。踏みにぢられた花園の雑草を追い、肥料を与へ、陽あたりをよくしてやつてこそ芽がでてくる。芽がでて花木が自然に伸びだすまでは外の力が必要である。少くとも立ち直りが早い。西松会としては蹴球部に対して右のような意味においての力を与へることが必要とされてゐる時期である。

顧みれば蹴球部は歴史の浅い部と考へていたが既に創立以來三十年になる。創立当時の大勉強者キリンの高橋も近年頭髮とみに白さを加へ、斗酒なお辞しなかつた私が酒をやめるようになったのだから、いつまでも気持は青春であり、思想に進歩はないのかも知れないが、わが身世に心る眺めせしまにいつしか歳

月は流れたのである。

部にも盛衰があり消長があつたが、早野、吉澤、金井、清水、吉田、荒川、堀尾等が大学三年当時が黄金時代であつたといえるであらう。あのとき東大、早大を破り天下の霸権をタイム・アツプ回際に慶大に阻まれたのは實に遺憾なり、十年一剣を磨くの感がした。勿論、この時代を培つた大掛、村井、鈴木(彰)、浅田、重見、林田、後藤、岩崎、小西、二階堂、米山、池尾、菅瀬、狩森等、更に遡つては角田、森田、浅根、荒井等々の努力と熱情は部史に不滅の功績を残すものである。戦没せられた荒井、小西、米山等の姿は特に大きく浮んでくる。

当時、霸権の長蛇こそ逸すれ、一橋蹴球部の基礎は確立した。物質的には宿縁と云はうか昔から恵れぬ部ではあつたが、精神的には心の豊かな学生スポーツらしい部ができ上りかゝつた。惜しい哉、戦争でこれが凡て打ち砕かれてしまった。

打ち砕かれるどころか部が廃止されるかどうかの瀬戸際まで来た。当時、米を食へず、芋をかがりながら、今日は先輩の遺骨を迎へ、明日は自らの応召を待ちつゝある部員に對して、蹴球部員として全身全霊を部生活に打ち込めと口に云いつゝ、私どもは心で泣いた。とうとう終戦の前年頃は最悪の事態に立至つた。たしか加藤(弟)、佐藤、奥村の諸君だつたと思うが、西荻窪の拙宅へやつてきて蹴球部を廃止せざるを得ない旨を申出てこられた。私は即座に「廃められるものなら廃めて見よ、不心得者は退き下れ」と大喝一声したことを覚えてゐる。怒鳴られた方々も今でもよく印象に残つてゐることゝ思う。私としてもあのとさほど大きな声をしたことは余りない。

私も当時の部員の窮状はよく察していたが思はず大声を立てたのである。しかし今日巻へてみるとあの大声は戦地に行つていた者の声であつた。「松本さん、あとのことには頑みますし」と部の後事を託され「よし引受け」と大部分の函松会員を戦地に送つた私であつた。禪丸兩飛の戦地からの音信がまた蹴球部を喚ぶる純情なほどばしりのみであつた。祖國に捧げた一身は、明日の命も全く計り知れぬのに「一橋蹴

蹴球部はなれしと念ずる気持を伝へてくれた。神野や荒井や茂木等はおそらく蹴球部万歳を唱へつゝ護國の意と化されたことであらう。如何に部の経済生活が苦しいからといつても、戦時体制とスポーツとの議論を聞かされても、私としては首を切られてでも「蹴球部を廃止するのもしむを得ないし」など男として言えないことであつた。

かくして蹴球部最大の危機であつた戦時中もどうやら学生と一緒になつてもちこたえてきたのであつたが、西松会員の同志が一人復員し、二人帰つてくるようになつて私の気持はその度毎に何やらホツトするのであつた。「もう私達でやりますから」と大掛君や二階堂(晴)君が帰還してから言つてくれたときほど嬉しいことはなかつた。

社会思想は戦後一変した。講和後にもまだどう変わるか判つたものではない。併し変らないものは人の精であり、変へられないものは男と男の約束である。

蹴球部も齡正に三十歳となつた。幾度か試練を経た部である。伝統は力強く存続している。こゝらで適切な指導と適当な後援をすることによつて早く元の軌道に戻したい。そして走り出したら更に新しい道を開拓して新しい発展をすることであらう。これが吾々の務めであり楽しみでもある。次代の青年を育成することが私どもも人生の唯一、最大の義務である。私どもはこの責任を盡すことによつて一橋蹴球部を熱愛して後事を托されたい西松会員の英霊に報いたいと思う。

思ひのまゝに書き綴つていたら京都という車掌の声がする。四時十五分過ぎであり、東京から七時間余である。今夜は京都に一泊するのでいそいでパンをおいた。



西松會便り

一年間試合行事はあまり多くありませんが、例年の如く今年も一月下旬より約二ヶ月に渉つてOBリーグに出場、昨年度の好成績に比し全敗といふ結果に終りました。

対 学芸大OB	3	—	1
対 セントポール	1	—	0
対 W M W	3	—	0
対 東大OB	5	—	2

今年ば去年に比し集りが悪く入さへ集れば西松會優勝の望なきにしもあらずといふ如甚だ残念でしたが学生の応援にOB一同皆に還り「商大頑張つて行かう」と許り奮戦致しました。出場メンバー左の通り、

- FW
 - 田本塚藤木屋倉打川辺
 - 吉松山藤瀬青土永奥石渡
- HB
 - 美木浦柳
 - 鈴木松高
- FB
 - 岡藤森
 - 外加森
- GK
 - 沢川
 - 吉屋

(註)OBリーグは戦後、早慶東立明法教商等八校へ場合によつては十校へOBがニグループに分れリーグ戦を行なひその優勝者同志が決勝戦を行ふ方式で毎年一月下旬頃より土、日曜に行なはれます、三十分ハーフで前後半の人員交替も認められる制度です。来年こそは奮つて御参加願ひます。

五月三日 於国立 学生の申込により松本さんも御出掛になりましたが集り頗る悪くサブを混へて二一で敗れました。ついで六月十日今度は大挙OBが押掛けまして二一〇で勝ちました。

試合後エピキムールで練習の事、部の事学生一同と語り合ひ共に益すること大であつたと思ひます。

一、西松会総会

先日会員諸兄の御手許に配布しました案内状通り六月十七日（日）六時頃より新谷キリンビヤホールに於て戦後初めての総会を催しました。御多忙中にも不拘松本さん始め諸先輩多数の御出席を得、又當日御参加を得なかつた方々よりは種々近況報告を兼ね激励の言葉醸田の情を御寄せ頂きました。

会は先づ二階堂（晴）幹事長より「今晚久方振りに一同相集りまして珍しい方も見えて居らぬる処とて大いに昔の楽しい事を語り合ひ西松会の團結を計ると共に戦後の混乱の中より次第に充実して来た学生現役を凡ゆる面より積極的に応援してゆく為忌憚ない御意見を聞かして頂きたい」との開会の挨拶、乾杯に続き松本さんより逐次西松会蹴球部発展の爲の熱意溢るゝ意見、希望の吐露、さては近況身辺の報告あり、飲む程に酔ひ程に昔のシーズンオフの会さながらの活況を呈し間に寄せ書き、記念撮影を行ない最後一同「長煙遠くしを高唱、盛會裡に名残を惜しみつゝ解散致しました。時に十時。

末筆乍ら松本、高橋両大先輩に種々御配慮頂いた事を御報告旁々厚く御礼申し上げます。

当日参会者

松本、二階堂 謹、板村、村井、浅田、二階堂 晴、吉沢、吉田、山本、宮沢、藤塚、青木、瀧藤、安田、松浦、永倉、奥村、外岡、高柳、森、小島、石川、

出席者の御意見近況を始めとして会員諸兄の動靜目下手許に於いて判明致す限り簡單乍ら次項にて御報告致します。尚住所勤務先については末尾住所録御参照下さい。

二、會員近況

松本君の敬愛する松本さんが今春過勞より軽い腦充血で一週間程休まれました。輕くマ何より幸ひでしたが現在も衰勢を避けてをられます。その中をわざと、渋谷迄当夜御出席頂きました。大好物のアルゴールに手も触れられぬお姿は頗る淋しかったですが相変らぬ蹴球部を又西松会を御心配になる熱情は吾々をして急情を戒め奮ひ立たしめるものがあります。

五月三日園立での対現役戦に御出になつた際OBの集りの悪い事を慨歎され当夜も此に言及され「こんな状態では第一に西松会自体の連絡も悪くお互に助け合つてゆく機会にも乏しい。今日を期して西松会自体戦後の再出発を行なひ互に手を取合つてやつてゆきたい。試合振りその他現役もやつと落着いて堅実な道を歩み始めた様に思はれる。此処で一ツ弟や子を育てるのと同じ気持で精神的に、物質的に積極的な援助をしてやつて欲しい。精神的にはグラウンドに顔を出し一緒に球を蹴つたり話をしてやつたり又物質的には最近アルバイトが減つたとは言ひ乍ら今の社会状態では靴やボールも満足に手に入れ難い時だ、物心共に満足な練習の出来る様に援助の手を差し伸べてやつて貰ひたい」と強張されました。

高橋(朝)君は又会場其他種々御世話になりました。当夜御出席の予定の処前日の対東大ボート定期戦翌四十オレースを漕がれ一艇身半での惜敗といふ奮闘に御疲れで見えられませんでした。よつてかくの如く御元氣です。

西田君証券取の重鎮として活躍されてをられます。総会に御出席下さる予定の処、御多忙の爲見えられず残念でした。

二階堂(謙)君卒業されて給六年御子さん三人の御父さん、会社では營業指揮の第一線に立たれ、最近西松会蹴球部に大分御熱沙汰の御話より学生時代の追憶から先輩は大いに学生を鞭勵学生をして決して楽な気持ちに甘んじさせず学生らしく自分達の途を自分達で切り拓かせる様やつてゆきたいと申されます。

水島君御便りによれば今年三月三都商事名古屋支店より全大阪支店に転勤目下神戸に御住ひの由。
角田君当日前悪しく社用の為缺席されました明光商事営業部長さん、景気が宣しいのか不景気でも負けな
いのか真赤な顔をして相不変お元気です。

枝村君珍らしい方が来られました皆で大歓迎です、御子さん二人既に上の方は高等学校一年です。目下銀
座教習屋橋交又点のピンゴホールをやつてをられます。当夜昔の出場問題等想出話に興ぜられました。
大根君あの張切ボーイ掛さんが療養生活に入られてから大分たちました。御便によれば幸ひ経過至極良好
の御様子徹底的に静養されて今や体重十八貫に迄なられた由（一オスマイトな掛さんを見慣れた目には
想像も出来ません）良く辛抱された事と思ひます。今度の会合につりても病床より御激励と羨望の言葉
を頂きました。さぞ吾々と一緒に飲んで騒いだかつた事でせう。今一息の御辛抱御養生願ひま
す。

村井君今年の冬のOBリーグには会社の山嶽部長とやらのスキー出遊に一同の期待に及し出場されませんで
したがその罪滅しに春は二回の現役戦に練習に現役の眼を丸くする様な元気一杯の御指導をして頂きま
した。今後も球の蹴れる大先輩として御自愛御鞭達の程願ひます。

浅田君小学校五年生を先頭に御子さん三人の御父さん、相不変真黒い顔に台湾時代の私設送手権を獲得さ
れたお話等誠にお元気です。

重見君幹事の連絡不行届の為東京にお住いを知らず少し早ければ浅田さんより御連絡頂けたものを大変
失礼致しました。目下東京明電社渉外部勤務に移られます。

後藤君案内状に対し懇切な御激励の御便り頂きました。生憎目下会社の監督者教育担当の為御顔を見せら
れず残念でした。

岩崎君昨年御母堂なくなられてから余り御目にかゝつてをりませんがお元気の由。
二階堂君（晴）君今回より幹事長をしつかりやります。自由党増田幹事長の補佐役といふ日夜たゞならぬ職務

の傍いろく、西松会の企画運営につき高等政策を営みます。既に御子さん二人。

早野君長い腎臓の御病氣から漸く回復されよろしく御勤の始めに存りました。往年のダネさん、の英姿を今一度見せて頂きたいものです。

金井君桐生より今春東京本社へ転勤、持病も大分宣敷会社で蹴球靴を磨いて遊んでられますからまた、エートン君のこくのあるプレーを秋から見せて頂けると楽しみにします。

吉沢君日本ダイカストの社長さんとなつても往年ネギ鉢巻で頑張つたそのまゝの意気と熱で「蹴球部が強く存るもならぬも吾々が良く後援するか否かにかゝつてゐる。学生時代に合宿や試合で多数の先輩から慰問激励を受けた事は何ものにも増して感銘が深かつた。此の様なかから先輩後輩の繋りも出ず現役も力の限り蹴球部に打込んでゆけると思ひ是非とも一つ先輩力を併せ西松会を現役蹴球部を設立して、ゆきたい。OBリーグにだつて皆の氣さへ合はせれば軽く優勝出来るんだ」とまさにゴールを死守する概がありました。

坂尾君お元氣に依然三信貿易にお勤めです最近大分お肥りになりました。

吉田君御子さん一人おありですが昨年から奥さん御病氣で尚療養中大変ですが目下半チヨンガーで多方面に御活躍、日本橋の要衝にあつて種々西松会の連絡お世話に預ります。

清水君昨年から肋膜炎で御療養中一時快方に向はれ乍ら又少しがり返す等少々淋しいお便りに一同心から御快癒の日の早からん事を祈つてをります。

中森君(旧姓荒川)君今度の会に御出席下さるかもお便りに久振りと一同期待してお待ち致してをりましたが遂に見えられず誠に残念でした。アルコール景氣に益々御元氣の様子御繁栄の程祈ります、今に一斗樽程御願に上ります。

石割君入社以来の神戸製所勤務より二四年伊丹製所へ転勤、男の御子さん二人、元氣にお過します。鈴木(英)君奥さんを賞はれ、格着く間もなく東京勤務から富士工場へ移られました。

松岡君朝日新聞第一線経済記者として大活躍今年四月新婚旅行中は朝日の記事低調を極めたと嘆いてました。此の間久振りに現役戦に來られ良い御指導を頂きました。

光山君相不変大阪銀行備後町支店で頑張ってます。東京転勤を運動されてゐるさうですが外國為替のエキスパートで放しまくれないさうで喉巨体をもてあましてをられることではせう。

折下君長いシベリヤ生活から無事帰還されると直ぐ九州勤務に廻られました。今度土屋五郎子マンが現地転勤となり歓迎会を兼ね九州商會を催されるといふ御便りがありました。

山本(旧姓櫻井)君一頃不調だった御体もすつかり良く、運動百般に誠にお元氣です。一太郎二姫(もう小学校)のお父さん。

藤塚君一姫二太郎(六ツと三ツ)を抱へお父さん会社の組合を引張って此からストライキに突入せんとすといふ顔して頑張ってます。寧ろ学生時代よりも元氣に現役の相手をして走り廻ってます。

学生時代に吾々の力の至らなかつた点を今にして取返さうといふ頼もしい限りです。宮沢君二年道くの闘病生活の後全快一ヶ月前から青木、石川君のゐる昭光商事に勤め始められています。各々よりも艶々と並にお元氣な様子で何よりでした。只頭だけは益々。

村木君通産省から警備予備隊へ飛び込まれ予算、経理関係を米管理から日本側に引継ぎ事務に御多忙です。軍服に「オー」といふ如何となく板についてます。

居川君此頃は余り「オー」デッカクともありません。台湾関係の商売に日頃誠に御多忙為に頭がすり磨つたさうです。本夜も御出席予定が急な出張でお目に掛れず残念でした。

青木君昭光商事の新鋭課長さん、若手OBの俊英で彼が來ると何かやり出しさうで頼もしいです。相不変会の人になくなくニヤ／＼させる雰囲気は満ちてゐます。

瀬藤君藤塚ポンチマンと背中合せで仕事をしています。幹事としても種々奔走致してをります。奥さん一人です。精々追便った方が大將の為ださうです。

土屋川五郎チヤンが九州に移つて花んだのは折下さん、五郎チヤンは未來の奥さんを東京に置いて夜毎東の空を仰いで淋しがつてます、吾々在京都も苗の抜けた様な感じですよ。球を蹴らないための体を壊す様なことのない様子を付けて下さい。

太田川森永製菓の会計主任さん、金詰りの折板頭を悩まされることが多いことでせう。憂さ晴しに一つ元氣な学生と球を蹴つて下さい。

鷺野川関西で電鉄の切符切りから運転手をしてたと思つたら何時の間にか浜松で機屋さんの大将です。鷺野川コンツエルン建設に昼夜を措かず働いてます。酒を飲んで話をすれば皆に交らず更に遠大な抱負に人を煙に巻きます。

安田川学生時代の合宿に映画古雑誌を山と積んで吾々を楽ませてくれた天分は戦後就職難の何百人に一人といふ東京の入社試験に試験官の知らない事を講義して聞かせて現事にパス。目下日比谷東京勤務です。混んでない時には御便宜を計らいますさうです。

最近盛んに奥さんを物色中ださうで御心当りの方は御世話願ひます。

高橋川終戦直後の慌しい最中に学校を飛び出し小久保産業から今は田忠商店に御勤務をぞうです。

奥村川先月お母さんを亡くされ名実共に親父に成りました、現役以上に我武者羅に走り廻ること普通り、本社の角丸商店で本場勤め。

加藤春川高橋三善と同時にか久保に入社其後大阪勤めに変わり大阪で身を立てる迄は東京に帰らぬさうです。松浦川四月に貰つたお嫁さんもボールの魅力にはかなはぬさうです、商売板日本橋方面出歩いては商売会の運結止り使を勤めます。

永倉川理研ゴム解散後暫く落着きませんでした。が今度松本さんのお世話で同和化工に御就取になり、秋田の現場にしばらく勤められる由。

佐藤川勤めの関係で長い間九州だ何処だと長期出張に歩いてたのが此処で奥さんを貰つて東京に落着かれ

たさうです。一つ蹴りにも顔を出して下さい。

高柳リハツパの渾名の如く、烈々たる斗志に満ち事ある毎に顔を出して頑張ります。

加藤^省鋼管の蹴球部にあつて実業団に張切つてます、相不変真黒い顔に白い歯で真面目にニコくしてゐます。

小島^リ卒業以來横濱に住ひの為顔を合す機会に乏しかつた同君が遠路久振りに總會に來られ恰好は紳士でも昔に交らぬ柄の悪い処を見せて呉れました。

外岡^リ松高より戦后学部に來られた方能選手戦後の苦しい部生活を逞しいフアイトで支へてくれました。昨年のリーグ戦で現役が負込み元気のなくなつた時合宿に三日程一緒に閉ぢ籠つて叱咤激励二部で四位を確保する等良く面倒を見て頂いてをります。

鈴木哲^リ外岡君と同時に専門部より学部に移りてその激しい気魄とタフなプレーに先頭を切つて走つた頑張りやです。住ひが東に片寄つたのか恋女房に惹かれたか此の処余り顔が見られず甚だ淋しい極みです。哲さん御家族連れで是非來て頂きたいと思ひます。

布谷^リシベリヤ帰還当時青ぶく水の營養失調でグラウンドの芝生に坐つて淋しさうに練習を見ていた頃に比べるに見違へる様に元氣になりました。

森重^リ外語から学部へ終戦後のキーパーとしてよくやりました。仕事も忙しうでせうが時に愉快な顔を皆に見せてやつて下さい。

蛭子^リ鈴木哲君と同じ専門部より学部へ、今は外航再所の同社にあつて大活躍です。

森^リ角田さんのある明老商事、食糧関係勤務、若い現役は大いに一緒に蹴りたがつてます、一つ暇を見付けたら出掛けて下さい。

渡辺^リ今年三月卒業、村井さんのヤ一物産勤め、会社で球を蹴る以上に國立に出掛けて積極的に現役に接触して下さい。

石川リ宮沢、青木さんと同じ昭老商事、去年一年はマネージヤリ兼務で御苦労でした。総会に於いて部運
営上の財政面の実態と苦心を屢々述べ先輩の後援なくしてはを強調されました。

松本リ奉張らしく意気の良い君が卒業直ちに大阪勤務となり全く淋しいです。関西在住の諸先輩に部の近
況を良く伝えて頂きたいと思ひます。

丸山リ戦後の困苦時代、専任部より毎日の練習にリーグ戦に奮斗、卒業後も西松会の有カメンバーとして
OBリーグや現役戦に元気な顔を見せられます。

幹事よりお願い

お願いの第一

戦争後母校蹴球部の存立が危殆に頻して、西松会としては曖昧な蹴球部との肩れ縁的関係を続けるよりは寧ろ、深く、関係を断つて、西松会を卒業生のみの集りとなし、部の再建は後日に俟つ方がよいのではないかとまで真剣に考へた一ときもありました。若し先輩各氏の努力で持ちこたえて来て来て呉れて、今日、母校蹴球部も、世相も、何もかも良くなり、西松会の物心両面の積極的活動が最も必要とされる時機に到達して来たことは誠に喜ばしい限りであります。

現在の学生の蹴球部生活を、戦争前の蹴球部生活と比較することは殆んど無理でしようが、学制改革、世相の不安定等懸念条件に置かれながらも、総ゆる意味で戦前のような蹴球部に一日も早く還り度い、と云うのが現役蹴球部の指導者層の念願であつて、その莫先輩団も大いに努力のし甲斐を感じてゐる次第であります。然乍ら一橋会から支給される蹴球部の予算は一ヶ年ボール四個分相当額で、之も学生の一橋会費の延納の爲いつ支給されるか判らないという状況であつて、従来近も蹴球部なら、或は西松会の名前を以て、棧に心じ必要額の御繰出を各先輩宛お願いして賄つて来て居りましたが、今般西松会の組織の強化と、運営の組織化が確立致しました。西松会の予算の一部に学生蹴球部の援助費用を計上し、おき、合理的に物的援助を決定し得る態勢を整へて、母校蹴球部の育成を計り度く考へ、西松会予算を次の通り計上致しました。

昭和二十六年度秋季及昭和二十七年度春季予算

項 目

金

額

円

計

蹴球部刊行費

八、〇〇〇円

0.B リーグ戦費用

学生合宿補助

神戸商大定期戦費用

ボール代

学生蹴球靴購入補助

学生リーグ戦費用

通信費

事務連絡費

予備費

三、〇〇〇

四二、〇〇〇

五〇〇〇

三〇、〇〇〇

九〇〇〇

三、〇〇〇

五〇〇〇

一〇〇〇

一五、〇〇〇

計 一、二一、〇〇〇

加盟費一五〇〇円、登録費一五〇〇円

一人当り食費一五〇円、二〇人、七日、春・夏二回

グラウンド借料及ミーティング費用

春・秋各五個、合宿五個、計十五個

新入部員に対し半額補助六人分

加盟費一、五〇〇円、登録費一、五〇〇円

幹事事務連絡費

試合後のミーティング等補助

右は一年間の必要額でありますから夏、冬二回にわたつて、先輩各社より次の通り御提出願うことに致しました。

提出金額 壺口 金五百円也(在京、地方を向はず)

提出方法 在京先輩は原則として幹事宛御持参下さい。

在地方先輩は幹事兼藤自宅(東京都世田谷区北沢四丁目五〇三番地)宛御送金下さい。

尚、第一回提出金は学生がリーグ戦を控へて夏の合宿を九月一日より始めて愈々本格的シーズンに入りますので、至急準備の必要がありますから、時節柄急の御願で誠に恐縮ですが、八月中に幹事に必着の如く御取計い御願致します。

又第二回以後の提出金に就ては追て御通知を以て御願致します。

お願いの第二

西松会の運送は先づ第一に会員の動靜、近況の整備されることから出發しなければなりませんのに、本号による会員消息、住所録はその意味で幹事の好方足らざることを示しており、この長甚だ申訳なく思つて居ります。

本号所載の勤務先、住所録に訂正補遺を要する箇所及び今後の御兼任、御転居及び身辺の異動等ありました折は幹事宛御連絡下さるよう御願致します。

お願いの第三

既出の通り、学生は秋のシーズンを迎へて愈々次により夏の合宿練習に入ります。

期間 自九月一日 至九月七日

場所 国立、蹴球部部室 グランドは国立

本合宿は特に全般的な練習スケジュール立案に就ても幹事がタッチして積極的に指導致し度く計画中であります。在年の夏季合宿を再現致したく先輩各位の御参加、御指導を切に御願致します。

— 以上 —

戦後の蹴球部の概況

終戦の翌年即ち昭和二十一年、一橋蹴球部はいち早く復活されリーグ第一部に復帰加入する事となりました。当時、復員間もなかつた松浦・永倉等の諸先輩は食糧事情の欠乏・インフレの昇進等察察せる無条件に悩まされ乍らも、異常な努力を以つて蹴球部の再建に邁進されたのです。部員の大部分は何れも戦前にボールを蹴つていた人達であり、それだけに部の復活は早く実現されたわけであります。若し之等の諸先輩が居られなかつたならば、部の再建は更に遅延を見た事と思はれます。然し乍ら之等の諸先輩の努力も空しく、二十二年のリーグ戦に於て遂に二部に転落するの悲運を招きました。一橋蹴球部の一部に於る

吾輩は此の年を以つて当分見られぬ事となつたのであります。そして二十三年の春、八名のレギュラーを
一斉に社会に送り出してからといふものは、蹴球部はあらゆる意味に於て戦後の波に没はれ、一時は部の
存立すら危ぶまれる状態に立到つてしまいました。即ち復活当時、専任部を合せて三十名に垂んとしてい
た部員も、打續く社会状態の悪化並びに主力選手の卒業によつて、専任部員の練習参加者は一名も居なく
なり、新入部員の退部者も續出して、二十三年の二部リーグ戦には僅かに三、四名の本科生と七、八名の
予科生とを以つて平うじてメンバーを揃へ戦ふ有様で折詮勝利への望みは覺つかなく、再び全敗を喫して
三部へと転落の一途を辿つたのです。然しこの転落を契機として部員の中には漸く奮起せんとの気魄が芽
生え始め、少数の部員は心を併せてよくまとまり、文字通り芋をかじり乍ら練習に精進しました。戦後の
蹴球部が最も苦しかつたのはこの二十三年及び二十四年でありました。個々人の経済状態の不安定、食糧
事情の悪化、部財政の窮乏、技術的低下等はその根本を為す原因であつたと思はれます。この同部員達は
よく頑張り試験に耐え、黙々と再起の日を期していました。かくして二十四年のリーグ戦には十三名の部
員をもつて全勝を遂げ、再び二部に帰り咲いたのでした。一方この頃から鋭意部員の獲得、養成にも全力
をあげてきた結果、現在では部員は二十四名を数へ、二部に在りて虎視眈々一部復活を期して練習に精進
してをります。

以上は終戦以来の部の簡単な経過報告であります。学制改革によつて既に専任部は廃止され、現在は
新制大学（一橋大学）と旧制大学（東京商科大学）の両制度が併存し、前者は三年生を最高学年、後者は
本科三年及び二年の二学年を残し、旧制の学生は一橋大学東京商科大学学生の名稱を以つて呼ばれていま
す。後二年経てば一橋大学一本になるわけでありませんが、過渡期の現在では練習は新旧両制度の学生が一
体となり、国立のグラウンドで週に三日やつて居ます。校舎は新制大学の前期学生（一年及び二年生）は小
平、後期（三年生）及び東京商科大学の学庄は国立を使つています。小平のグラウンドは戦争の爲め荒らざ
れましたが、その大半は整備され昔のホッケー・グラウンドの跡には白いクッキリしたゴールポストも立つ

て新制大学の学生が運動に明るい学生生活を楽しんでいます。この様に社会状況の落着きと共に学園生活も漸次平静を取戻し、以前程アルバイトも苦しむ学生は少くなりましたが、運動部そのものも財政状態は依然として悪く、最低経費四万円の我が部に対してはも学校からの出費は八千円程度にしな置かず、この経費の不足を補ふべく今年から部員一人当り月五十円づとの積立てをし始めました。更にその不足分は先輩方の御援助に仰いでいる現状であります。尚本二十六年度よりリーグ戦の編成替へがあり、各部は七校編成(在)へ従来は六校編成)、同時に入替戦が行はれる事となりました。現在の實力を以つてしては今尚一部に太刀打ちし得る所近には立到つて居りません。然し今年卒業された三名の先輩と共に現在残つて居る東京商科大学の七名の部員は何れも二十三・四年の最悪期を良く耐え、良くのり越えてやつて来た人達ばかりであり、真面目な部・明朗な部・反愛に貫かれた部をモットーに、今年こそは蹴球部の飛躍の爲めに力強く立上らうと固く心に期して居ります。

最後に、終始変らざる部の爲めに御指導御援助をいたゞいてをります松本・高橋両大先輩を始め諸先輩方に衷心より感謝致す次第であります。

(註)

リーグ戦順位(昭和二十六年度リーグ戦からこの一部七校編成になる予定であります)

一部 早大・慶大・教育大・立大・東大・中央大・明大

二部 慈恵大・千葉医大・商大・農大・日医大・法大・工大

以上

昭和二十五年及昭和二十六年春季戦績

(I) 昭和二十五年
三月四日 練習試合

○四月二十二日(土) 対高等農林戦 於小平

高炭 2-10 商大

○五月七日(日) 対 B 戦 於小平

0-3 10 現役

- G.K. 高橋
- R.B. 石井
- L.B. 小林
- R.H. 田原
- C.H. 吉沢
- L.H. 針谷
- R.W. 渡辺
- R.I. 斎藤
- C.F. 渡辺
- L.I. 松本
- L.W. 井田

○五月十三日(土) 対慶応二軍 於日吉

慶応二軍 4
 2 2
 1 1
 0 0
 0 商大

- () G.K. 高橋
- R.B. 文芳田 (本)
- L.B. 小林
- R.H. 田原 (神代)
- C.H. 吉沢
- L.H. 針谷
- R.W. 渡辺
- R.I. 斎藤
- C.F. 石川
- L.I. 高田
- L.W. 井田

○九月十六日(土) 対千葉医大戦 於東大

商大 /
 1 0
 1 1
 1 0
 / 千葉医大

- G.K. 高橋
- R.B. 堤
- L.B. 本田 (山下)
- R.H. 針谷
- C.H. 吉沢
- L.H. 田原 (神代)
- R.W. 渡辺
- R.I. 斎藤 (高田)
- C.F. 石川
- L.I. 松本
- L.W. 井田

○九月十七日(日) 対 B 戦 於国立

0-4
 2 2
 1 1
 2 1
 3 現役

- G.K. 高橋
- R.B. 堤
- L.B. 本田
- R.H. 田原
- C.H. 高田 (吉沢)
- L.H. 針谷
- R.W. 渡辺
- R.I. 斎藤
- C.F. 石川
- L.I. 松本
- L.W. 高木

(i) ○リーグ戦開始

○十月七日(土) 対慈恵医大戦 於東大

慈恵医大 5
 3 2
 1 1
 0 0
 0 商大

- G.K. 高橋
- R.B. 堤
- L.B. 小林
- R.H. 田原
- C.H. 吉沢
- L.H. 針谷
- R.W. 渡辺
- R.I. 斎藤
- C.F. 石川
- L.I. 松本
- L.W. 井田

(iv) 十一月五日(日) 対農大戦
 於東大

G.K. 高橋	商大
R.B. 堤	3
L.B. 小林	0 3
R.H. 吉沢	1 1
C.H. 針谷	0 /
L.H. 本田	/ 農大
R.W. 高田	
R.I. 斎藤	
C.F. 渡辺	
L.I. 松本	
L.W. 石川	

(iii) 十月二十九日(日) 対日本医大戦
 於武蔵野

G.K. 高橋	商大
R.B. 堤	5
L.B. 小林	3 2
R.H. 石井	1 1
C.H. 針谷	0 0
L.H. 吉沢	0 日医大
R.W. 高田	
R.I. 斎藤	
C.F. 渡辺	
L.I. 松本	
L.W. 石川	

(ii) 十月十四日(土) 対千葉医大
 於八幡山

G.K. 高橋	千葉医大
R.B. 堤	3
L.B. 石井	1 2
R.H. 田原	1 1
C.H. 針谷	0 0
L.H. 吉沢	0 商大
R.W. 高田	
R.I. 斎藤	
C.F. 渡辺	
L.I. 松本	
L.W. 井田	

〇五月二十六日(土) 対成蹊大
 於成蹊大

商大	0
0 0 0 0	
1 1 1 1	
0 0 0 0	
0 成蹊大	

現役又

G.K. 高橋	1 1
R.B. 堤	1 1
L.B. 小林	1 0
R.H. 田原	1 0
C.H. 篠宮	1 0
L.H. 針谷	0 0
R.W. 吉沢	
R.I. 斎藤	
C.F. 高田	
L.I. 石井	
L.W. 井田	

〇四月八日(日) 硬習開始
 於国立

(II) 昭和二十六年春季

(V) 十一月十八日(土) 対明大戦
 於武蔵野

G.K. 高橋	明大
R.B. 堤	7
L.B. 小林	4 3
R.H. 田原	1 1
C.H. 針谷	0 0
L.H. 吉沢	0 商大
R.W. 高田	
R.I. 斎藤	
C.F. 渡辺	
L.I. 松本	
L.W. 石川	

○六月十日(日)対0・B戦
 於国立

G.K. 高橋 0
 R.B. 堤 B
 L.B. 小林 2
 R.H. 田原 1
 C.H. 篠宮 1
 L.H. 針谷 1
 R.W. 吉沢 0
 R.I. 斎藤 0
 C.F. 高田(菊) 0
 L.I. 石井(弘) 0
 L.W. 井田 0

現役

○六月四日(月)対成瀬大戦
 於武蔵野

G.K. 高橋 商大 /
 R.B. 堤 /
 L.B. 小林 / 0
 R.H. 田原 / 1
 C.H. 篠宮 / 1
 L.H. 針谷 (神代) / 0
 R.W. 吉沢 /
 R.I. 斎藤 /
 C.F. 井田 (高田菊) /
 L.I. 宮田 /
 L.W. 高末 (井田) /

○六月十八日(月)対神戸大戦
 於武蔵野

神戸大 3
 2 / 1
 1 / 1
 0 / 0
 0 商大

○六月二十三日(土)対農工大戦
 於小平

G.K. 高橋 商大 4
 R.B. 堤 (石井弘) 2
 L.B. 小林 (林) 2
 R.H. 田原 (田原) 1
 C.H. 篠宮 3
 L.H. 針谷 1
 R.W. 吉沢 4
 R.I. 斎藤 農工大
 C.F. 高田(菊) 農工大
 L.I. 石井(弘) 農工大
 L.W. 高末 農工大

部員紹介

吉沢弘泰(学部三年 R.W.)
 キャプテイン。人の上に立つ様な柄じゃないけど
 咳き作らぬ実によく部をリードしています。性格は
 地味ですが、真面目で仲々の人情家です。往年のフ
 アイトは見られませんが、今年からウイングに出、
 二十七才の童顔をふりたて、タツチラインに沿つて
 暮進しています。

後宮 清 (学部三年 CH.)

マネジャー。雌伏ニケ年、今や病癒えて対神戸大戦には見事なカムバックぶりを見せました。資性明朗、典型的なスポーツマンです。窮屈な部の財政面を一身に担っていても、楽しそうな美声をふるはせて大いに部員達を喜ばせています。

小林達夫 (学部三年 LB.)

部の隠れた貢献者。スネの固い事は部随一。無神経とも思はれるその見事なアタック振りには一同感服しています。クソイデオオ、ソイデオオとデカイ声で部の中を賑はし、時折澄じそうに部同伴で現はれては吾々を悩まします。

井田登也 (学部三年 LW.)

偶に学生服を着ると奇異に感じられる程のリユウとしたジエントルマン。あんまり光線されすぎています。故か、うっかりすると煙に巻かれそうです。がその実は人のいゝ真面目な人間。今学期は理事会の用で思ふ様に練習できない様でしたが、九月からの活躍が期待されます。

梶 光義 (学部二年 R.B.)

気がやさしくマカ持ち、叩けば鯨の音がする。その

鼓の音に惚れ込んで慕ひ寄る乙女も現れました。フアイトは彌が上にも高まり、試合の時の黙は陽焼けの色が物語つています。御察しあれ！その純情の程を。今後二年間の奮闘が観物です。

針谷 操 (学部二年 L.H.)

引締めた顔・油もつけぬそのバサ／＼な髪。針谷君は仲々一徹な人です。練習中の気概は部員一同を圧するの感があります。惜しい哉、その壹々たる体格もこの折胸を痛めて些な消耗気味です。本来の親子に立歸れば再び獅子奮陣の活躍が見られる事でせう。

高橋敬蔵 (学部二年 G.K.)

ウリの様だった顔にもいつの間にか荒態さんの様な髭が生え始めました。蕎麦が好きな故か身長も伸びて六尺に垂んとしています。部に於る親子二代の活躍は周知の所。羽胡にして素直、岳のいゝ典型的なスポーツマン。一橋蹴球部の名物男としてその大成を望むや切。

斉藤 隆 (新制三年 R.I.)

よく喰べよく眠る。部員一同の寵愛を一身に担っているのは、人格円満さの然らしめる所とせう。その紅顔に似ず、試合中の「ネバリ」は賞すべきだが、

借むらくは鞍足を持たず。トロンブルを嫌いて上にも押びず、好漢中の好漢。

石井弘志（新制三年 L.I.）

世界は自分のために存在していると信じている立派な男。学校に出てくる事では人後におちまぜん。エグツ子前ビジネスマンの昏りフィンパン。身体の弱いのか傷ですな、ポジションは何処にでも使へる重宝な男です。

田原洋二（新制三年 R.H.）

黙々として球を蹴り、黙々として球を遊ぶ。その名R・Hぶりは既に衆人の認める所。岳行方正・学術優秀の吳は他の者の以て範とすべき所です。近時喫煙をおぼえた様ですが、段々隅にも置けなくなつてくることとせう。

高田菊夫（新制三年 C.F.）

部内でも有数のセオリスト、身体はスマートだが、仲々実行力に富んでいる。真白な歯をむき出して、ニコリと笑ふ笑顔は妙に愛くるしい。性極めて真面目、その活躍は今秋隨一の観物となりん。美はしき夢を求めて美しき夢に置はず。あゝ！

宮田幸三（新制二年 L.I.）

一橋には珍らしい生粋の大阪ツ子で、気の強い程な弱い葆な性格の持主。練習中によくアングルを痛めて泣き、面をするが、今後の練習如何では長足の進歩が期待される。より一層強固な神経と肉体とを養うことが望まれる。

神代祥野（新制二年 L.H.）

寮の住人とは思えぬ紅顔の美少年で、練習熱心で真面目な証據としてこの一年尚に長足の進歩を遂げた。常に微笑を以て部の雑事を援けている吳は部生活の柱り方をよく理解していると云へよう。体力をつける事ヒプレイの上の一層の研究が必要である。

高末 隆（新制二年 L.W.）

度重なる不幸にも負けず、人生の悲哀を撥々することなく、真摯練習に励む快男子である。兎角の導あるアプレゲールの中で、ホッる気骨ある若者を持つ一橋蹴球部は幸福である。寮のエッセンの悪さを抑ヒビタミン注射で補ふ所は將に彼の面目躍如。基礎プレイの研究を望む。

本田忠勝（新制二年 L.B.）

名にしおふ名将も病復には勝てない。肺浸潤にて目下林部。先日の農工大対一橋大戦応援中の切齒扼腕

の姿をみても、カムバツクの魂が期待されています。

森 良全（新制二年）

元暹一の内務派。十九貫を軽く越えて今や廿貫に迫る。キヤブティン必死でシボラんとするも一向に着せません。十八貫台に止つても、ミスター・サツカ―部は先づ動きまします。屋号、青柳（同君の家は御菓子屋さんです）の石に背きまします。

山下誠一（新制二年）

北海道の山中からコロコロコロと駈つて止つた所が小平の命の森の中だとは、ワスも些々驚いた。ワスすかは東京、ワスより駈かる奴を見た。それはサツカ―の奴だとか。小熊の皮も脱ぎ捨て、今ぢや立派な商大生。

田中豊二（新制二年）

慢性腸カタルの為此の所練習はしていません。部報第二号の新人紹介でおだまられた感がある。けれどいくら撥しても欠点は身体が強くない事位しか無い。早く元氣になつてカムバツクする日を待つ。

新人紹介

林 和良（新制三年） 長野中出身

新人中最古、貫祿も充分、去年の秋に入部しました。口数は少ないが、酒豪らしい。試合、練習が終ると乙な手つきをして喉をならす所なんか、堂に入ったもんです。又南口すればその言葉たるや奇警。思へば思ふ程に呑ばしい男ではある。部室での放屁も忘れる事が出来ません。

鉦 司（新制二年） 鯉城高出身

名門鯉城高の出身。足の速さは部を牛耳ると思はれる。入部以来日も浅く練習日数も少ないが、ナガス不彦の如き体はそれを裏証するに充分である。何はともあれサツカー部に溶け入つてもらいたい。未だ救の新人。

向井 敏（新制二年） 莪崎高出身

戦火をくぐり海を越え、滿洲から引揚げて着いた所が山梨の莪崎とやら言ふ所。お猿を相手にニヶ年を山の中で過したせいかな、運動神経発達し、日々の上達すばらしく、今後の活躍見て下さい。

石井 敏（新制一年 RW） 新宿高出身

顔はクレオパトラか陽貴姫か同直える程のものだけ
ど、なな／＼ファイトを持つて居る。新宿高校背に
しよつてサツカーやつてたそのために、背は押ひな
いが腰低くキックは大分當つて居る。吉沢キヤップ
テン無き跡はW型の右端に筋をとりんと、産降券腕
に獲得はしてある模様。石井は同じ石井でも大風呂
敷は待ち合せない。

高田勝巳(新制一年 G.K.) 立川高出身

入学するや真先に蹴球部に飛込み、練習は皆勤と言
つた蹴球部の優等生。慶応へ一年寄り道して来たせ
いな、彼の心臓とハツタリは本なりのものです。キ
ーパー見習をして居り、カンの良さとファイトで一
応のまとまりを見せているが、このまゝ固まらず、
一層蹴球の正確性とキックの強さを期待する。

鈴木輝彦(新制一年 C.H.) 水海道高校出身

ガツチリとした体格、リリしい顔つき。彼が笑へば
泣く子も黙ると言ふ様な男。グラウンドを走る所はさ
ながら重戦車、地雷丈には気をつけて頂きたい。テ
クニツクを身につけた臆には、バズーカ砲もちと成
なうまい。

西松会名簿

幹事長 二階堂晴三
 幹事 瀬藤俊雄
 幹事 松浦巖

卒業年度

大 15 松本 正雄

昭 2 高橋朝次郎

明石 綴

5 成島 鎮彦

6 豊田 達治

8 西田嘉兵衛

勤務先

中央区京橋二ノ一、京二館ビル三階
 松本法律事務所（56-1-66-2-1）
 中央区京橋 明治屋ビル内
 キリンビール株式会社
 大阪瓦斯株式会社

住所

杉並区西高井戸一ノ一三九
 （荻原39-1-3, 286）
 鎌倉市材木座一、一五七
 （藏倉一、四二二）
 豊中市大字原田四三一
 豊島区长崎仲町二ノ三三
 埼玉縣與野町下落合九七八
 千代田区一番町一五ノ六
 （九段 三五八一）

花正石 兼長 滋商會（66-1-296/8）
 中央区日本橋茅場町一丁目一六
 角丸証券（66-1-22-1-229）
 五八四五

10

二階堂謹司

千代田区丸の内二、二、丸ビル五階

武蔵野市吉祥寺七九八

後藤 博基

日本カーバイド工業
中央区日本橋本町二ノ三

品川区上大崎一ノ四八六

11

水島 茂

東亜交易貿易部
大阪市東区瓦町三丁目、三和銀行ビル

神戸市生田区下山手通八丁目一三六
(元町三一三)

12

角田 昇

三都商事大阪支店織維部
中央区日本橋通二丁目二、加藤ビル二階

文京区林町一六

田島 輝重

明九商事営業部
自営 紙業東京出張所

目黒区上目黒八ノ六六八

森田 昭之

日本橋屋町二ノ一
三井鉱山経理部

中野区野方町一、六三一

夜村 藤三郎

中央区銀座西四ノ三
合資会社深川商会

藤沢市元瀬一、八二六

13

鈴木 彰

茨城県日立市
日立炭業所業務課

大井 隆久

中央区室町二ノ一一
新日本通商 (京橋五三〇七
七一六一九)

川崎市上丸子山王町一、四四一

村井 恒共

中央区日本橋呉服橋二ノ一
第一物産金物部

世田ヶ谷区玉川真沢二ノ一九三

浅田 英三

港区芝新橋四ノ二六

港区芝公園五号地ノ五

重尾 敏之

愛知漢網製造東京出張所(芝一三三一〇)
品川区東大崎二丁目
明電社渉外課(大崎49-103-065-114)

(芝43-10271)
大田区夕ヶ原八〇一

後藤 虎雄

栃水県日光町清滝

栃水県日光町清滝六一〇

岩崎 寛貞

古河電工日光精製所

丹羽社宅
中野区鷺宮一ノ二

15
二階堂晴三

東洋雄材
千代田区永田町
自由党本部幹事長室(58-10563)

大田区調布横町一の三〇

菅瀬 十朗

大阪市北区新川南町一

文京区丸山町一一
(大塚一四五一)

16
早野広太郎

三菱紙業大阪精練所營業部
中央区日本橋室町二丁目六

中野区野方町二ノ一六一三

金井 雄吾

三金物産(4-15-9)
中央区日本橋室町二ノ一
ニ四〇三

中野区鷺宮四丁目四六一

孤尾 貞一

東洋レコーン本社
中央区日本橋小舟町二ノ一、小倉ビル

三倉貿易(66-16344-1076)
六三四二、五八六〇

吉沢 貞准

目蒲線武蔵新田

港区麻布広尾町五九

日本ダイヤスト

吉田 廣彦

清水 陸

石刺 知之

中森守之助
(旧姓荒川)

鈴木 英二

松岡 養彦

光山 尤夫

折下 章

山本 寿叔

藤塚 亮策

中央区日本橋盛町二ノ一

三井造船営業部(24-17578)

川崎市堀川町七二

東芝電気整理部 (崎 1-25775)
(川 1-23079)

尼崎市南清水字中野八〇

三菱電機伊丹製作所業務部

足利市通五丁目二八二二

花の春 醸造元 中森酒造店

富山県下新川郡道下村

日本カーバイト興業工場

朝日新聞大阪府記者クラブ (25-10232)
(25-10258)

大阪銀行備後町支店

福岡県大牟田市

三井化学三池染料工業所

中央区京橋三ノ二、片倉館内

日本製粉資材課(京橋一五一九) / 六

日本橋本町三ノ九

東日本重工業経理部

目黒区倉町一〇ノ七

南多摩郡町田町辰町田五三

伊丹市若菱町

楓寮内

同上

(足利七番)

世田谷区北沢五ノ八六六

豊中市大字原田六四三

松島方

福岡県山門郡柳河京町五六

三染寮

杉並区萩窪二ノ一二八

(萩窪一〇〇二二)

新宿区西大久保三ノ二七

村木杉太郎

警察予備隊

居川 運一

日比谷、三層ビル内

ウインザーカムパニー (57-14520)

宮沢 力

千代田区大手町、大平ビル

昭光商事

青木 育郎

同 石

瀬藤 俊雄

日本橋本町三ノ九

東日本重工業経理部

土屋 五郎

大牟田市港町

三井鉱山三池港務所経理課

大田 賢三

港区芝田町一ノ一二

森永製菓 (三田ビル一ノ二〇/九)

鷺野 和夫

岡山市下石井二九二番地

山陽ゴム化工株式会社

安田興三郎

東宝 (日比谷映画劇場)

(57-66335)

高橋 三善

東区北沢二丁目九六ノ一

田忠商店

土佐堀 (44) 北 栄 (23) 一四四 一五八

武蔵野市吉祥寺二七二九

豊島区池袋三丁目一町三五

品川区東品川二ノ一一一

新宿区淀橋四六八

世田ヶ谷区北沢四ノ五〇三

(32-10539)

北多摩郡三鷹町下連雀一三四

馬木方

大阪府豊中市春日通一ノ八

大田区雪ヶ谷八六八

奥村 一郎

加藤 春樹

松浦 巖

永倉 真平

佐藤 裕之

高柳 晋

加藤 省

小島 寿

布谷 由之

外岡諒三郎

中央区日本橋通二ノ十、庄友ビル

水村業 角丸商店 (74-2596)

大阪市東区北久太郎町五ノ三、ミツワビル内

三浦商会

千代田区丸ノ内二ノ二、丸ビル四階

兼私東京支店

同和化工株

千代田区神田鎌倉町

千代田化工建設営業課 (25-5811)

千代田区神田錦町三丁目一

大同印刷経理課 (25-3436)

千代田区丸ノ内一ノ一〇ノ一

日本鋼管本社経理部 (23-1620)

千代田区神田富山町二

日東化学工業勤務部 (66-263269)

千代田区丸ノ内二ノ一八、岸本ビル三階三一六号

丸紅東京支社 (23-3181/4)

中央区築地一ノ五

大多喜天然ガス (55-2900)

品川区上大崎四ノ二二八

大阪市阿倍野区桑津町三〇三

光明荘

杉並区高円寺六ノ六八九

埼玉県葛飾郡幸平町四一九四

中央区日本橋吳服橋三ノ三

(24-16524)

新宿区西大久保三ノ一三七

品川区大井出石五〇八一

日本鋼管山王社宅

横浜市港北区篠原町一八五四

(神奈川) 4-10461

文京区駒込西片町十番地イの三六

(小石川) 四五六七

24

鈴木 哲夫

森重 利直

日本橋坂町二丁目

大東町蔵(66)1-1-31(7)

中央区葵町三丁目八

日本冷蔵貿易部 (55)1-21-37(9)
3-145(9)

柴子 義文

森 一美

26

25

渡辺 俊夫

石川 正和

松本 由之

丸山 節生

千代田区丸の内二ノ二、丸ビル六階
川崎汽船(20)1-177-1(4)

中央区日本橋通一丁目七、千代田銀行日本
橋通支店ビル五階

明元商事 (24)1-5585 (4)3-13
6-138

中央区日本橋兵衛橋二ノ一
第一物産

千代田区大手町、大手ビル

昭光商事

大阪市東区高麗橋三丁目一

東棉

中央区日本橋通一ノ九、白木屋五階

日本油脂会計課 (24)1-337-1(4)
1-156(9)

葛飾区金町四丁目

大東町蔵金町工場寮内

杉並区阿佐ヶ谷四ノ四二五

弘見荘

新宿区市ヶ谷台町二一

板橋区板橋六ノ三、三五六ノ九

杉並区香梅町二六

文京区根津須賀町八

西宮市南昭和町一〇五

東棉寮

蹴球部部員名簿

主 将 吉沢 弘杰 (旧3)
 マネーシヤ! 篠宮 清 (旧3)

学年	氏名	出身校	住
旧3	吉沢 弘杰	都九中	豊島区千早町一ノ三三、落合(95)三六〇五
	篠宮 清	都六中	北多摩郡久留米村南沢六五七
	井田 登也	都五中	目黒区中根町二四三、荏原(08)二六五八
	小林 達夫	正則中	南多摩郡日野町森三三五二
旧2	梶 光義	都一中	世田谷区北沢四ノ四一二、世田谷(42)一六二八
	高橋 敬蔵	湘南中	鎌倉市材木座一、一五七、鎌倉一四二二
	針谷 操	都四中	新宿区柏木一、一一九
新3	斉藤 隆	横浜一中	杉並区西田町一、六九七、長崎方
	石井 弘志	都五中	北区王子一、一九、王子(81)二八八八
	田原 洋二	金沢一中	武蔵野市西壁一、二五
	商田 菊夫	都八中	品川区豊町二ノ一三七一、荏原(08)一三五五
	林 和良	長野中	北多摩郡国立町、一橋大学中和寮
新2	本田 忠勝	名経専	北多摩郡小平町、一橋大学一橋寮
	高木 隆	佐賀高	
	神代 洋男	山口高	

新ノ

石井	鈴木	高田	鎌	向井	森	田中	山下	宮田
徹	輝彦	勝巳	司	徹	康全	豊二	誠一	幸三
新橋	水海道高	立川高	鯉城高	韭崎高	豊島中	都三高	旭川高	高津中
滋谷区穂田一ノ一	一橋寮	武蔵野市吉祥寺二三二	世田谷区玉川奥沢町三ノ一、小林元方	北多摩郡小平町	文京区田町三〇、小石川(85)三七六四	市川市八幡一六四	北多摩郡小平町小川、石田写真店方	武蔵野市吉祥寺二一四三、安達方

帝自先

鈴木	山下	高末	宮田	神代	本田	秋	首藤
輝彦	誠一	隆	幸三	洋男	忠勝	和良	隆
茨城県北相馬郡大野村野木崎	旭川市外神居村本町	長崎市目覚町一〇九、古川方	大阪市西区南堀江上通一、二一	兵庫県西宮市橋尾小松西七	愛知県和多郡上野町大字荒尾字東前田面九二	長野県上水内郡水内村	横須賀市新橋二〇〇五、逗子三六三

編集後記

◎西松会第一回総会席上で本号発刊の発議があつてから、余りにも時日を経過してやつと発刊の運びとなりましたが、申訳ありません。

◎復刊第一号の編集は一部の学生に指定した原稿を書いて貰うだけで、専ら幹事の手で行いましたが、第一号からは学生諸君の積極的活動をも期待して編集方法も本く度へて往年の「蹴球」の面影を取戻す予定であります。

◎本号には時に松本允輩の御密稿を御願ひ致しましたところ御病後であり、且つ御多忙中にも拘らず、又昨今の炎暑中のところを玉稿を賜り、この復刊第一号の特つ意義を益々高め頂けたことを厚く御礼申上げます。

◎西松会第一回の席上記念写真を撮影致しましたが、写真屋が間違へて二重撮りをした為、本誌上を飾ることが出来ず、誠に残念でした。

編集責任者

二階堂

晴三

瀬藤

俊雄

松浦

巖